

イタリア リンゴのコンソーシアムがクラブ品種の収穫を開始

EUROFRUIT 2023年8月30日

Vogコンソーシアムは、8月中旬に最初のロイヤルガラとスイータンゴを収穫し、2023年の出荷シーズンを開始した。ボルツァーノ(北イタリア)に本拠を置き、4,600人の会員を擁するこのコンソーシアムは、ヨーロッパを代表する生食用リンゴ生産組織の1つであり、豊富な水供給と昼夜の良好な温度差のおかげで、今年の収穫物の品質は優れているとしている。

ウォルター・パルダッチャーCEOは、「今年もまた取引先に対して12か月にわたり、誰もがそのニーズに合った果実を見つけることができるだけの高品質なリンゴの大規模な品揃えを提供することを保証できる。現在の課題は、会員のコミットメントと専門知識を完全に活かすために、市場の複雑さと生産コストの問題を乗り越えることである」と述べている。

市場の需要に関して、Vogは最初の兆候は前向きであるとしている。クラウド・ヘルツル販売部長は、「作シーズンとは対照的に、今年はずでにすべての主要市場で販売の余地が生じているようだ。ダイナミックで活気のある需要があり、総合防除と有機栽培の両方とも受け入れる市場がある。」

昨年は生産量が減少したが、Vogはロイヤルガラの収穫量が従来の水準に戻ったとしている。ゴールデンデリシャスの収穫量も平均的な水準であるが、グラニースミスとレッドデリシャスは、イタリアの他の品種と同様にわずかに減少すると見られる。従来からの主要品種としては、このほかふじとブレーバーンがあり、これらがコンソーシアムがこれまでに収穫した中で最大のシェアを占めている。(従来品種の英字表記は省略しました。)

ピンクレディー(Pink Lady)、カンジ(Kanzi)、ジャズ(Jazz)、エンヴィー(envy)、イエロ(yello)などのよく確立されたクラブ品種の生産量も安定している。コンソーシアムは、新しい品種のコズミッククリスピー(Cosmic Crisp)、ギガ(Giga)、レッドポップ(RedPop)、ジョヤ(Joya)、クリムゾンスノー(Crimson Snow)、スイータンゴ(Sweetango)では、昨年新植したものの生産量が増えることから大幅な増加を期待している。

Vogの栽培面積の10%を占める有機栽培も安定しており、有機栽培品の品質に対する期待は非常に高い。

取引先向けと店頭における消費者向けの取組みに重点を置いて、新シーズンに向けて革新的で多様な販売キャンペーンを用意したとVogは説明している。

販売部長のハンネス・タウバー氏によると、コンソーシアムが提供する幅広い品種とブランドは、消費者にとって魅力的でカラフルな果物売り場を作り出すための鍵である。

同氏は、「リンゴの種類が多いため、マーケティングはオーケストラのように機能する必要がある。各ブランドには独自のアイデンティティがあり、特定のイメージで目標の客層にアプローチする。このため、年間計画を導入した。これにより、重複を避け、適切なコンテキストと適切なタイミングで弊社のリンゴの異なるアイデンティティを強調できる。目標は、取引先の業者が消費者にアプローチし、売上を伸ばし、リンゴ部門を強化するのをサポートすることである」と語った。

最初に開始される販促キャンペーンの1つは「アルプスの娘」マリーン(Marleneブランド)で、いくつかの古典的な品種に付加価値を生み出すため、アロマホイール(香りの要素を示す円形チャート)、産地、味の概念を拡大する。8月下旬には、「リンゴの中の夏」として提示されるスイータンゴのマーケティングを開始する。

10月には、エネルギーに焦点を絞った販促でカンジに、続いて五感とプレミアム品種としての位置づけをテーマにしたエンヴィー、さらにグルメな品種のイエロにスポットライトを当てる。11月には、最後に収穫されるピンクレディーの販促が始まる。シーズンの後半には、冷蔵貯蔵に特に適したコズミッククリスピー、ギガ、レッドポップの各品種に焦点を当てる。

執筆者: マウラ・マクスウェル

訳注: yello®は長野県で開発されたシナノゴールドの商標で、Vog等イタリアの2団体が県と独占的販売契約を結んでいます。